



青森県教組養護教員部 2024.7.12.

折々のことば

鷲田 清一 2466

人間が一人集まります。力は倍になります。しかし、責任は半分になつたと感じるので。なだいなだ
強制収容所では人を番号で呼ぶ。動物を食する時は「肉を食べる」と言う。こういふ「抽象化」によって人は自らの残虐性に钝感になると、作家・精神科医は言う。組織の中に入るといふのも同様で、人は個人としては消え、役割になる。そして個人の肉体に内蔵された攻撃と抑制の二つのスウェイツチのうち、後者がきちんと働くかなくなつては、人間、この非人間的なもの』から。

2024.8.13

お元気ですか

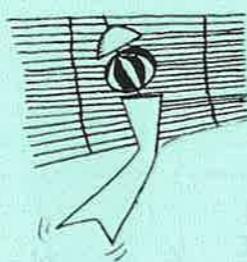
夏の到来です。「真夏日」「猛暑日」「危険な暑さ」…かつて好きだった夏もだんだん嫌いになつていくような気がします。とはいへ、これは自然現象ではなく人間がうみ出したもの。人間活動による温室効果ガスの排出が日々気温を押し上げているのです。

今年は「エネルギー基本計画」の見直しが行われているそうです。関心を持ち続けていきたいですね。

熱中症に気を付けて日々を暮らしていきましょう。良い夏休みを!

2024.
アンケート・署名に
ご協力を!

最近見つけたいい言葉
「何をやっても無駄だわ！」と空しい気持ちになる時、私は家事に励みます。家事に無駄はないからね」
加藤登紀子のひらりー音
6.17.4
朝日新聞



子どもたちが行きたいなる学校にしませんか

私たち養護教員部は、子どもたちの心とからだの健やかな成長発達が守られる、学びがいのある学校づくりをめざしています。そして、私たち保健室・養護教諭は、子どものいのちと健康、安全を守る様々な役割を担っており、適切な判断・対応が求められる存在です。

そうした保健室・養護教諭であるために、日頃より社会情勢とのつながりなど広い視点をもちながら、自らの力量を高めていくこと、そして、自身を劳わり、喜びや楽しみを感じながら、心身ともに余裕をもって働くことが重要といえます。私たちの働き方は、子どもたちの健康認識を育てる事にもつながるからです。

しかし、子どもの健康問題の多様化・複雑化に伴い、担う役割も多様化・複雑化し、余裕をもって対応にあたることが難しいと感じる場面も多くなってきました。特に、新型コロナウィルス感染症への対応にも苦慮し、緊張感と多忙感はいよいよ増しているといえます。

また、私たち養護教諭の多くは一人職種であり、専門職であるがゆえの悩みや疑問を職場で分かれえないこともあります。学校の統廃合が進められ、正規の養護教諭の採用数を抑えため待機講師の減少や免許外養護助教諭の配置もみられるようになりました。このような中、若い養護教諭はもちろん、正規採用ではない養護助教諭へのサポート体制の充実や、講師の心配をせずに妊娠や病気で長期休暇をとることができる環境づくりは、ますます必要になってきているといえます。

こうした現状を踏まえ、安心して意欲をもって働き続けるために、お互いの小さなつぶやきや思いを拾い、伝え合い、つながり合うことがいよいよ大事になってきているものと思います。学習や交流などの出逢いを通して、うれしい時や楽しい時、困った時や悩んだ時に気持ちや行動を共有できる仲間を、一緒につなげて子どもの心やからだを大切にする仲間を増やしていきましょう。

すべての方に組合加入を訴えます

昨年はアンケートが実施できませんでした。コロナは落ち着きましたがまだ終息しているわけではありません。学校も日々変化していることでしょう。少し立ち止まって、子どもたちのこと、先生たちのこと、学校の様子、自分の仕事などふり返ってみませんか。

日頃思っていること、気にかかっていることなど自由にお書きください。「氏名・校名」を書いてくださった方には後日「まとめ」を郵送します。

署名は回覧できそうな折は回してください。無理だなあと思ったら仲良しの先生に。それも無理でしたら自分一人分でもかまいません。「数は力なり」

夏の夜の楽しみは蛙の合唱。2階で寝る時 網戸越しに聞こえる蛙の声は最高の子守唄です。自然の恩恵を受けているなあ、幸せだなあと思っているうちに寝入っているようです。

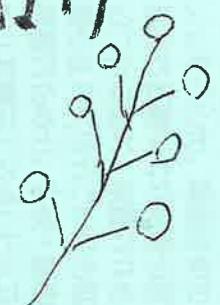
〆切
8月25日(日)
同封した返
信用封筒で
どうぞ。

文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)



20

気をつけ なけ冰ば ならなーと

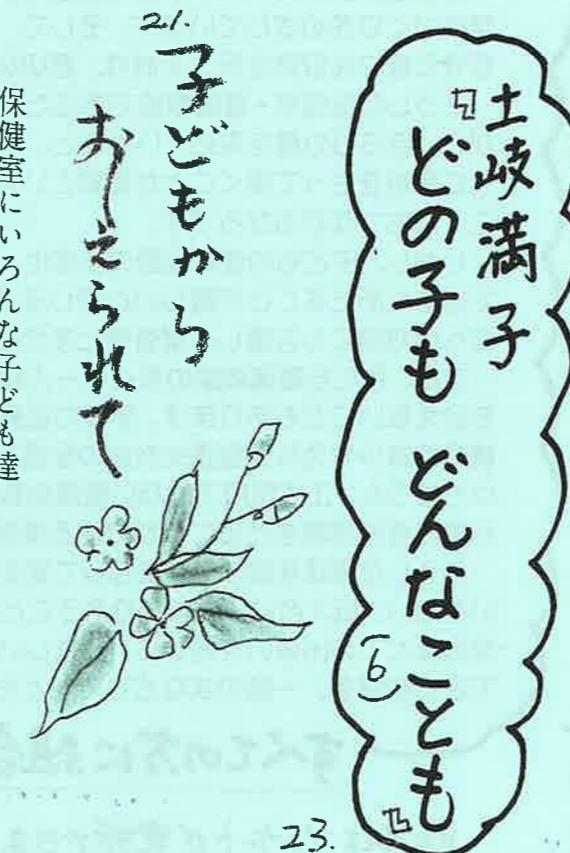


害のある薬もあることを知らせたかった。お母さんが薬をのんで、手や足が欠損した子どもがうまれたこと。

今は使用されてはいな

が、気をつかうこと、知ることが大切だと、実際使われていた薬を見せた。

子ども達はおどろいていました。



保健室にいろんな子ども達

が来ます。

一人の子が、隣にすわっている人の口がにおいがしていやだということでした。

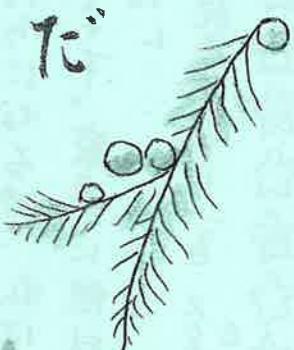
自分で、気づかないことが多いので、さつそく歯につ

いている歯垢をとり、その臭いを嗅ぐという、とりくみをしました。つまようじでとり、そのにおいをかいだ子ども達

「くさい。先生、歯をみがきたい」と大きい声ではなしていました。

22. 眼か

つかれて いうんだ



視力測定をすると0.9以下の

子ども達が多くなり、このままにしておけないと廊下に

視力表を掲示したり、眼の筋肉がつかれているから、テレビばかりは見ないでごそ

とはなした。

病院へ行くと仮性近視とい

う疾病名をつけられました。

眼の体操を子どもたち、先生方に提起し、中間休み中国式眼の体操をつづけることができました。私もつづけました。

子どもの
眼と子どもの
じはつながそー

視力が、おちている子の視力をときどき測ります。

そんな時、一人の子がこんなことを話しました。

一人で家で留守をしていると、淋しくなりついテレビを見てしまう。

私も含めて、共働きの父母が多くなり、子ども達をそんな気持ちにさせてているということ、そして、視力とつながりがあるということを、子どもからおしえられました。

